

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 9 年度病害虫発生予察注意報第 1 5 号について
平成 1 9 年度病害虫発生予察注意報第 1 5 号を発表したので送付します。

平成 1 9 年度病害虫発生予察注意報第 1 5 号

平成 2 0 年 2 月 2 6 日
宮 崎 県

- 病害虫名 灰色かび病
作物名 果菜類（イチゴ、トマト、キュウリ）
- 1 発生地域 県下全域
 - 2 発生時期 本圃収穫期
 - 3 発生量 やや多～多
 - 4 注意報の根拠

1) イチゴ

イチゴ果実での発生状況は、発生面積率28.6%（平年7.4% 前年8.3%）、発病果率1.8%（平年0.2% 前年0.2%）で、ともに平年より多である。（図1，2）

例年2月に発生がやや増える傾向にあるが、本年の数值は最近10年間で最も高い。

2) トマト

トマト果実での発生状況は、発生面積率23.1%（平年 8.1%）、発病果率 2.7%（平年 0.3%）で、ともに平年より多である。（図3，4）

既に1月25日付けで注意報を発表しているが、発生は更に増加し、菌密度は高い状況が続いていると思われる。

3) キュウリ

2月中旬におけるキュウリ果実での発生状況は、発生面積率23.6%（平年17.9%）、発病果率 1.2%（平年 0.9%）で、ともに平年よりやや多である。

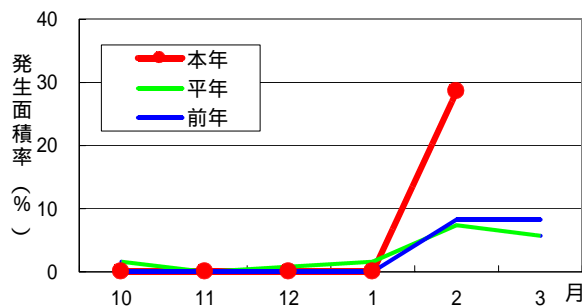


図1 イチゴ果実での発生面積率の推移

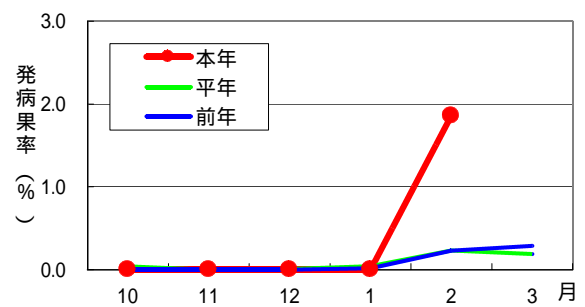


図2 イチゴでの発病果率の推移

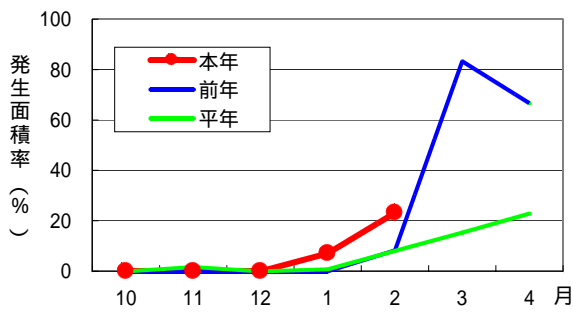


図3 トマト果実での発生面積率の推移

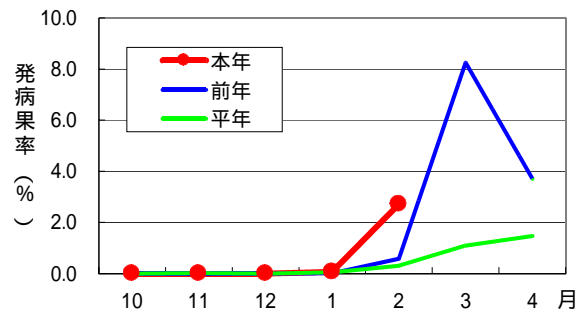


図4 トマトでの発病果率の推移

5 防除上の注意

- 1) 多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
- 2) 気温20 前後で多湿条件のときに発生しやすいので、過灌水を避け、換気・排水を良くし、過繁茂を避ける。気象条件や保温のための被覆状況によっては施設内が多湿となりやすいので、送風機を作動させるなどして除湿に努める。
- 3) 花弁や葉先枯れ部、折れた茎葉などが最初の発病部位となり感染源となるため、発病前から予防的に取り除く必要がある。イチゴでは、老化・枯死した下位葉を除去する。
- 4) 発病した果実や花弁、茎葉等は伝染源になるので、こまめに取り除いては場外に持ち出し、適切に処分する。
- 5) 発病後は定期的な薬剤散布が必要であるが、薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
曇雨天時には、くん煙剤等を使用すると、過湿防止に有効であり省力的である。
ボトキラーやインプレッションなどの微生物農薬は予防剤であるため、予防的な防除を基本とし、多発後は化学農薬と組み合わせた防除を実施する。
- 6) 防除薬剤等その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会する。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp